

## ドバイ日本人学校における国際理解教育

豊かな人間形成部部長 教諭 小川 真之

世界のグローバル化が進んでいる現代社会において、子どもたちの国際性を育んでいくことは重要であり、本校においても教育目標の一つに国際性の育成を掲げています。本校ではいくつかの体験的な活動の機会を設け、子どもたちの国際性を育む教育を行っておりますので、1年を振り返って代表的な教育活動を改めて紹介いたします。

まずは現地校交流です。4月から5月にかけて、本校の児童生徒はいくつかの現地校を訪れました。実際に現地校の授業に加わり、同世代の子どもと机を並べて学ぶ体験からは、大きな刺激を受けたようです。10月には現地校の子たちを本校に招待しました。日本の伝統的な遊びや創作活動に共に取り組む中で、意思疎通を図る難しさや大切さを感じたようです。活動後には多くの子が、もっと英語が上手になってもっと現地校の子たちと話したいと、英語の習得に対し必要感を持つ姿が見られました。

その他の教育活動として、5月には現地理解講座を行いました。日本文化を学ぶUAE人のサークル「Kharsha」の方々を講師としてお招きして、子どもたちがUAEの伝統文化を体験できるような機会を設けました。ここで体験の楽しさや生じた疑問から、ミナレ学習のテーマを設定し、追究をした子どももいました。2月にはミナレ学習発表会を行い、G3以上の子どもたちが、各自で設定した学習テーマについて、説明発表を行いました。

このような教育活動の土台になるのは、普段の授業です。それは、EC（英会話）やアラビア語の授業で外国語を耳にし、口にする機会を増やすだけにはとどまりません。国語や算数などの授業を通して子どもたちの思考力・判断力・表現力を向上させることが、豊かな国際性を育む素地となっていくと本校では考え、授業の質を高める研究実践を行ってきています。ご家庭での日常会話の中などでも、ぜひ子どもたちに異文化理解に関する「気付き」を与えて頂ければと思います。

現在私たちは、世界中の人と物が行き交う国際都市で生活をしています。子どもの視点を窓の外に向けさせ、たくさんの気付きを重ねさせることが、国際性を育む第一歩となります。未来を創る子どもたちが、日本と世界を結ぶ国際人となり活躍していくことを期待しています。



## 2月のトピックス

### 学校参観日（ミナレ発表会）

2月14日（木）に学校参観日（ミナレ発表会）がありました。G3からG8の児童生徒全員がこれまで調べたことを一生懸命発表することができました。G3の児童は先輩たちや保護者の皆様の前で発表することは初めてで非常に緊張していましたが、最後までしっかりと発表することができていました。G9は調べた内容をワード形式で作成し、図工家庭科室前に掲示しました。どの児童生徒の発表もドバイで生活するからこそ調べられるもので、とても興味深い内容ばかりでした。保護者の皆様におかれましては、ご参加いただき大変ありがとうございました。



### さわやかタイム（持久走）

3学期のさわやかタイムは、持久走です。眠い目をこすりながら、頑張ってグラウンドを走っています。皆、フルマラソン・42.195キロ完走を目指します。外で運動ができるこの機会に、たくさん走って、丈夫な体をつくっていきます。

